



▲近世年代略記(錦絵)



▲新聞誌・海外新聞



▲ヒコ(右)とヴァンリードの写真

●「近世年代略記(錦絵)の不思議」
 明治11年12月発行の錦絵には、嘉永6(1853)年に浦賀に来航したペリー提督が戸田伊豆守に特使として出会ったときの様子が描かれています。アメリカにいたはずのヒコが中央で通訳をしています。さて誰と間違えたのか。

●「ヒコとヴァンリードの写真」の不思議
 ヒコとヴァンリードのガラス板写真は、どの角度から見ても同じように見えますが、それ以前のダゲレオタイプの写真は光ってよく見えません。(展示会では写真とカメラを並べて展示)

●「新聞誌」の不思議
 ヒコが、最初に発行した「新聞誌」には自筆でサインをしています。しかし、よく見ると1号と2号ではサインの「JH」が違ってきます。

●「イラストレイテッド・ニュース」の不思議
 当時、アメリカの新聞は、写真をもとに描いたイラストで紹介されています。ヒコら漂流民は17人のはずですが、イラストにはなぜか18人が描かれています。

展示会の見どころ

記念講演会 ハワイにおけるヒコの足跡と歴史のかかわり

- ▶日 時 10月13日(祝) 13:30~15:00
- ▶場 所 県立考古博物館 講堂
- ▶講 師 石嶋興寿(ハワイ ジョセフ・ヒコ研究会副会長)
- ▶定 員 先着150人 ※当日受付順。

展示解説会

開催期間の毎日曜日
 13:30~14:00
 事前申し込み不要。団体などで解説を希望される方は、別途ご相談ください。



▲イラストレイテッド・ニュース



▲ジョセフ・ヒコ

- ▼期 間 10月4日(土)～11月30日(日)
- ▼時 間 午前9時30分～午後5時
- ▼場 所 月曜日休館(祝日の場合は翌日) 播磨町郷土資料館 展示室
- ▼問 合 せ ※入場無料。 郷土資料館

☎079(435)5000

播磨町古宮で生まれたジョセフ・ヒコ(浜田彦蔵)が、漂流民としてアメリカへ渡り、領事館通訳として帰国後、元治元(1864)年に民間人として最初の邦字(日本語)新聞を発行して今年、150周年にあたります。

そこで、『童子之輩にも読なんことを欲す(子どもたちにも読んでほしい)』という思いで創刊した「新聞誌」のほか、ヒコが明治初めに発行した「東京仮名書新聞」や日刊紙の創刊号などを展示し、新聞の歴史をたどります。また、大阪造幣局の設立や国立銀行条例の編纂などにも携わり、75年～88年まで神戸で暮らし、その間、製茶貿易や新式精米所の経営などを行うなどヒコの功績を多方向から取り上げて紹介します。

ジョセフ・ヒコ新聞発行150周年記念特別展 ヒコの生涯と新聞史

ジョセフ・ヒコ新聞発行150周年記念切手シート発行

切手シートは、リンカーン大統領に会ったころのヒコ(浜田彦蔵)をモチーフに、ヒコの生家、ヒコ漂流の栄力丸、ヒコ発行の海外新聞と自筆のサイン「JH」、ダンディなイラストのヒコで構成されています。

- ▶発売日 9月25日(木)
- ▶販売場所 東播磨管内の各郵便局及び郷土資料館
- ▶販売価格 1シート 1,080円(52円切手5枚、82円切手5枚)
- ▶発行枚数 限定1,000枚



▲150周年記念切手シート